◎ 女子高生が牛乳廃棄防止へ需要拡大策を提案

日本乳業協会は20日、東京都内で「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」を開いた。現役の女子高校生が「牛乳の廃棄を防ぐために」をテーマに牛乳の需要拡大策を提案した。考える会メンバー（学会やマスコミの女性オピニオンリーダー）や乳業メーカーなどとディスカッションも行った。考える会に高校生が参加したのは初めて。

牛乳の需要拡大策をプレゼンしたのは、洗足学園中学高等学校（神奈川県川崎市）の高校２年生・中川杏香さんと松永凛々子さん。２人はもともと興味があった牛乳に焦点を当て、社会課題となっている牛乳の消費量減少を防ぎたいとの思いから、牛乳の需要拡大策や、再利用の方法を検討・研究した。

２人が着目したのは「カゼインプラスチック」。牛乳に多く含まれるタンパク質カゼインを主成分としたプラスチックで、自然環境下で水と二酸化炭素に分解されるため環境負荷が小さい。２人は、実際に牛乳からカゼインプラスチックを製作し、耐性試験を実施。その結果、カゼインプラスチックには「耐薬品性」「不透水性」「耐咬合性」があることを確認した。このため、牛乳の需要拡大と環境負荷軽減の両面から、カゼインプラスチックを乳児用食器の素材として使用することを提案した。

牛乳の消費拡大策をプレゼンする中川杏香さん（右）と松永凛々子さん

出席者からは「環境面を考えると、紙のストローや容器などを導入しているカフェなどで、使い捨て容器として使用するのも良いのではないか」などの声が上がった。２人は「使い捨て容器も検討したが、『プラスチックは幼児が舐めると体に少し害がある』と耳にしたことがあるので、完全食品

由来のカゼインプラスチックは幼児用食器に適していると考えた」と述べた。２人の提案には「牛乳アレルギーの検証」や「牛乳の香りを消す方法」などの課題はあるものの、柔軟な発想に対し、出席者からは「画期的なアイデアを聞いて驚いた」「乳業界にとって救世主のような提案」と称賛の声が聞かれた。

２人はまた、洗足学園の女子高生１３７人を対象に実施したアンケート調査の結果を発表。牛乳を「好き」と回答したのは44・５％で、「嫌い」は13・９％、「どちらでもない」は40・９％だったという。牛乳を飲む頻度については、毎日１杯以上飲む人から、全く飲まない人まで様々だったそうだ。

この調査結果に対して２人は、女子高生など若者の間で牛乳の消費量が伸び悩んでいるのは、中学校を卒業すると学校給食などで飲む機会がなくなることや、日常生活で飲む習慣がついていないことが原因だとして、牛乳は決して女子高生に不人気なわけではないと分析した。

そこで２人は、現役女子高生の視点から、牛乳の消費拡大策として「インスタ映え」を提案。具体的には「グラスをデコレーションするためのステッカー」の開発や、「牛乳をベースとしたミックスフルーツジュースの作り方の普及」「ラテアート」など、インスタ映えする牛乳の飲み方や、幅広い年代の女性が興味のある美容面からのアプローチを考案した。

その後のディスカッションは「高校生と語ろう〝ミルクの未来〟」がテーマ。インスタ映えやミックスフルーツジュースの話を掘り下げ、今どきの女子高生のトレンドやブームについて議論を交わした。参加した乳業メーカーの社員からは「フルーツ牛乳は、ミックスジュースの文化がある関西限定で販売している。以前は関東でも売っていたが、高校生や若い子にミックスジュースが受けるのであれば、社内でもう一度、関東での販売を提案してみたい」などと、新しい着想を得た場面もみられた。